

《新刊紹介》

東北アジア研究センター叢書第 63 号

(東北大学東北アジア研究センター, 2018.1)

ブロニスワフ・ピウスツキのサハリン民族誌

～二十世紀初め前後のエンチウ、ニヴフ、ウイльта～

高倉浩樹監修／井上紘一訳編・解説

目次

序(井上紘一) …………… ix	藏譯の邦語稿は一九一一年上梓) …………… 259
復命報告	樺太アイヌのシャーマニズム(原著は一九〇九年公刊、
(報告 1)一九〇二～一九〇三年の樺太アイヌへの旅の	和田完訳の邦語稿は一九六一年上梓) …………… 283
予報 …………… 9	樺太島の原住民における分娩・妊娠・流産・双子・畸
(報告 2)B・O・ピルスツキーに関する情報 …………… 20	形・不妊・多産(一九一〇年公刊) …………… 313
(報告 3)樺太島へ出張した B・O・ピルスツキーの「委員	アイヌ(一九一一年公刊) …………… 355
会」書記宛書簡 …………… 22	ギリヤークとアイヌにおけるハンセン病(一九一三年公
(報告 4)中央・東アジア研究「ロシア委員会」議長 V・V・	刊) …………… 367
ラドロフ氏宛書簡 …………… 29	樺太島のオロッコへの一九〇四年の旅より(一九一三年
(報告 5)一九〇三～一九〇五年に樺太島のアイヌとオ	十一月末擱筆、一九八九年公刊) …………… 391
ロッコの許へ出張した B・O・ピルスツキーの報告…35	樺太アイヌの熊祭りにて(一九一五年公刊、初稿は一九
論文	〇七年二月以前に擱筆) …………… 483
樺太ギリヤークの困窮と欲求(一八九八年四月二十日	参考論文・記事
擱筆、同年公刊) …………… 75	アイヌ(M・M・ドブロトヴォルスキー著) …………… 647
アイヌの生活整備と統治に関する規程草稿(一九〇五	小田寒での熊送り(石田収蔵著) …………… 671
年三月擱筆、二〇〇〇年公刊) …………… 125	樺太島におけるチュフサンマとその家族(井上紘一
樺太アイヌの経済生活の概況(一九〇五年三月擱筆、	著) …………… 681
一九〇七年公刊) …………… 169	毛深い人たちの間で(W・シェロシェフスキ著) …… 737
樺太島の個別アイヌ村落に関する若干の情報(一九〇	日本の新聞が報じたピウスツキ関係記事(井上紘一編
五年五月以前擱筆、一九〇七年公刊) …………… 205	著) …………… 813
樺太に於ける先住民(原著は一九〇九年公刊、鳥居龍	ブロニスワフ・ピウスツキ年譜(井上紘一作成) …… 865
	跋(高倉浩樹) …………… 893

ピウスツキの妻チュフサンマの写真(本書より)



(1) 53 才のチュフサンマ (北里蘭撮影)
1931 年 8 月 15-16 日、白濱にて [北里 1932]



(2) 1934 年 1 月のチュフサンマ [Janta-Polczyński 1936]



(3) チュフサンマと少女 (1902-1905年、ピウスツキ撮影)



(4) 助造を抱くチュフサンマとその親族 (1904-1905年、ピウスツキ撮影)

(本書は非売品ですが、国内外の主要な大学図書館に寄贈されます)

詩『盲いたシンキンチョウの絶唱』について

長屋のりさんの詩(POLE 92-2, 2017.9)について、詩人は己の想像力を自由に羽ばたかせ一切の束縛を度外視して真情の吐露(言語化)に生命を賭すことを大前提としつつ、ブロニスワフ・ピウスツキの一研究者として、細かなことで誠に恐縮ですが、以下のように補足させていただきます。(井上紘一、2017.9.15)

1) 詩では Bronisław Piotr Piłsudski (BP と略記) へ「ピオトル」と呼掛けておられ、これには詩想の必然性があるものと思われます。ただ BP はポーランドやリトワニアでは「ブロニスワフ/ブロニス Bronisław/Broniś」と呼ばれていて、父親の名を踏襲する second name (ピオトル Piotr) で呼掛けられることはありませんでした。サハリンでも同じで、チュフサンマが彼をそのように呼ぶことはなかったでしょう。

2) 彼の妻の名前「シンキンチョウ」は、ご子息の木村助造さんによれば間違いで、実際は「ジユウサンマ」と明言されています(上記『…サハリン民族誌』716 頁)*。村崎恭子さんはこれを /cuh san mah/ と音韻表記し、「太陽から下りてきた女」と解しています。

「シンキンチョウ」は能仲文夫『北蝦夷秘聞』(1933)が初出でヤンタ=ポウチンスキ(1936)も踏襲していますが、それ以前は松川木公(1909)、青山東園(1918)、千徳太郎治(1929)がいずれも「チュサンマ」と、1940年代前半には知里眞志保も「チュフサンマ」と記しています。

3) BP が 1918 年に「ミラボー橋の下で」死亡とありますが、実際は 5 月 17 日「芸術橋 Pont des Arts」の上からセーヌ川へ身を投げ、遺体は 21 日にミラボー橋の袂で発見されました。

4) BP は 1887 年 8 月 3 日、既決囚として樺太島北西海岸のアレクサンドロフスク哨所(亜港)に到着、これが初来樺でした。ただし、監獄当局が 1896 年 7 月、測候

所設営のためサハリン南部へ彼を派遣した際の上陸地はコルサコフスクだったと思われます。

5) 「5月の夕暮れ」に「美しい湖のほとり」で「あなたにはじめて抱かれた日」は能仲情報によると思われますが、同場面は 1903 年 2 月頃にアイ・コタンの浜辺で出来と推測されます。「5月」にはブロニスワフは旅行中でした(前掲書 695 頁)。「美しい湖」は内淵(ナイブチ)の畔にある「白鳥湖 озеро Лебяжье」を指すのでしょうか。

6) 長男助造の生年が「1903 年」、長女キヨは(1905 年)「秋」に出生とありますが、実際は長男が「1904 年 2 月 12 日」、長女は「1905 年 12 月 18 日」に誕生と想定されます。

7) 詩作上の「トポス」は上述の「美しい湖」、「テンポ」はヤンタ=ポウチンスキから BP の死を初めて聞かされた 1934 年の「今日」(=1 月 8 日)に設定されていますが、夫の死はすでに 1925 年頃「露人の通辯」(=白浦[シララカ]のアダム・ムロチコフスキ)から伝えられていたそうです(金田一京助『北の人』179 頁、1934)。

たとえ、それが詩魂の生み出した vision, virtual reality だったとしても、チュフサンマへ寄せる夥しい共感の発露にほかならぬ、長屋さんの創造の営為には衷心より敬意を表します。

(注:安藤厚)本稿は詩の作者に宛てて書かれたものですが、両者のご快諾をいただきましたので、上記の新刊紹介と併せてここに掲載します。